

特集

認め合い、共に生きる

～多文化共生を考える～



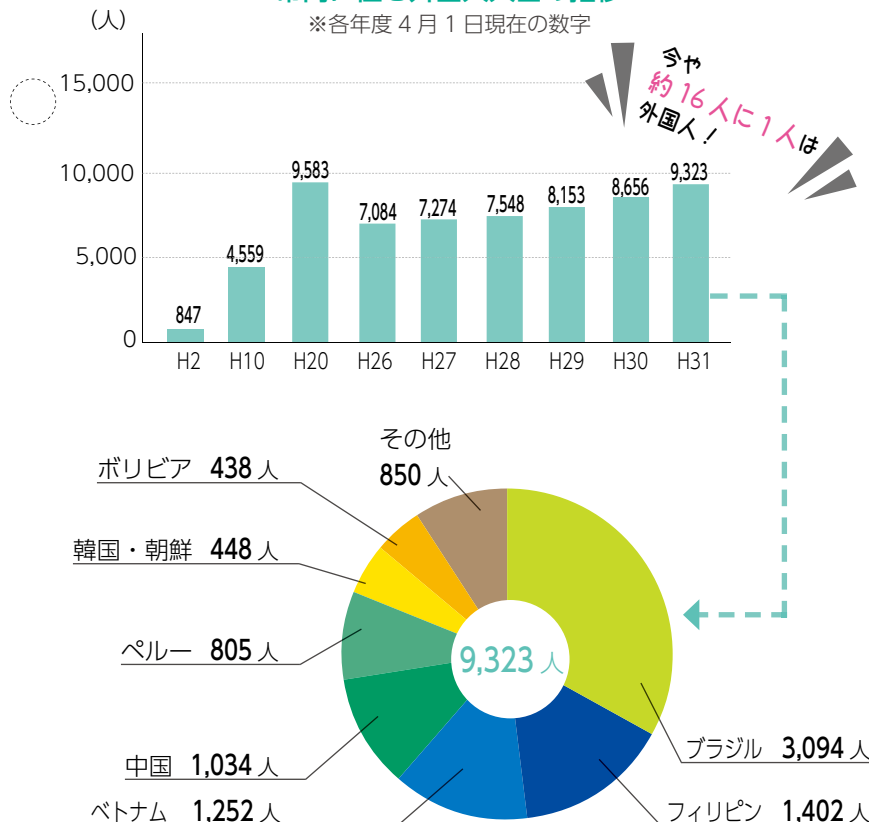
多文化共生とは

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことです。

つまり、地域に暮らす住民同士が、差別し合うことなく国籍や民族、文化、言葉などの「ちがいを認め合い、支えあう関係を持って暮らしていくことをいいます。

市内に住む外国人人口の推移

※各年度 4月1日現在の数字



現 在、小牧にはとても多くの外国人が暮らしています。市内で外国人を見かけると、とても珍しくて驚いていたのも今は昔。今では外国人との「共生」は当たり前前の時代となりました。

市内に暮らす外国人の数は、平成20年9月のリーマンショックをきっかけに、平成26年4月には約7,100人にまで減少しましたが、その後は、ベトナムやフィリピン国籍を持つ人を中心に増加に転じ、令和2年1月現在では9,912人で、リーマンショック前の水準よりも増加しています。

市内に暮らす外国人の中には、地域になじみながら生活している方がいる一方で、母国を離れ、知らない土地で不安を抱えながら生活している方もいます。

今回の特集は、「多文化共生」の推進に向けた現状や取り組みなどを紹介し、誰もが暮らしやすい小牧市について考えます。

行政の取り組み

多文化共生の推進に向けて、市が行っている取り組みの一部を紹介します。

外国人相談窓口の設置

ポルトガル語、スペイン語、英語に対応した通訳があり、市内に住む外国人のために、いろいろな相談を受けています。

また、外国人市民の国籍が多様化し、さまざまな言語への対応が必要になってきたため、外国人相談窓口に、中国語やベトナム語などの言語にも対応できるように、自動翻訳機を導入しました。



通訳のミッシェルさん(左)と坂本さん(右)



It's COOL!

自動翻訳機

互いに相手の言葉を話せない人同士が自国語のまま対話できる双方向の音声翻訳機。74言語に対応しています。

外国人相談窓口

※相談直通番号

問合先：多文化共生推進室 (☎ 76 - 1675)

時間：月～金曜 午前9時～午後5時

ごみ分別アプリ「さんあ〜る」の配信

ごみの収集日や分別方法などが確認できるアプリ。ポルトガル語、スペイン語、中国語、英語、タガログ語、インドネシア語、ベトナム語の7言語に対応しています。



問合先：ごみ政策課 (☎ 76 - 1187)

外国語版生活情報誌「こまき」の発行



ポルトガル語、スペイン語、中国語、英語およびやさしい日本語で発行し、情報発信を行っています。

毎月1回発行。

市内公共施設、コンビニなどで配布しています。

問合先：多文化共生推進室 (☎ 39 - 6527)

にじっこ教室 (日本語初期教室)

市の小中学校へ入学する子どもで、来日したばかりで日本語がほとんどわからない場合に、「にじっこ教室」で約3カ月間、集中して日常会話、ひらがな、カタカナ、日本の学校のきまり、習慣などを学んでいます。

問合先：学校教育課 (☎ 76 - 1165)

119番通報等多言語通訳

外国人からの119番通報時や、救急現場など消防活動中に電話通訳センターを介して、主要な言語で24時間365日、迅速かつ的確に各種災害に対応します。

英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語の5言語に対応しています。

外国人がいつ、どこから119番通報しても言語の支障なく、消防・救急サービスを受けられます。

問合先：尾張中北消防指令センター (☎ 72 - 0119)



「挑戦すること」として掲げていく予定です。

ぜひ、皆さんにも、まずはお互いを「知る」ことから始め、理解と交流を深めることで、多文化共生に必要な「お互いが思いやりを支え合つ心」を育てていただければと思います。

今後は、小牧市多文化共生推進プランを改訂し、第2次プランを策定します。新しいプランには、市民、企業、行政が、身近にできることを「挑戦すること」として掲げていく予定です。

市では、平成23年に小牧市多文化共生推進プランを策定し、「みんな「こまき市民」、助けあって笑顔で暮らせるまち」をスローガンに取り組みを進めています。多言語や「やさしい日本語」を使った、外国人市民のコミュニケーション支援などを行っています。

外国人市民は、20歳代から30歳代の働く若い世代が特に多く、市の生産活動を支える存在になりつつあります。また最近では、自宅の近くや学校などで接する機会が増え、身近な存在となってきました。

まずはお互いを「知る」ことが
第一歩です



多文化共生推進室
係長 金子清一郎



KIA (小牧市国際交流協会) の取り組み

KIA (小牧市国際交流協会) は、市における国際交流の推進組織として、平成6年度に誕生しました。協会の事業はボランティアによる運営を基本とし、国籍を問わず幅広い人材を活用する中で、日本人市民と外国人市民の交流を深めてきました。「小牧市多文化共生推進プラン」に定められた基本的な考え方である「みんな『こまき市民』、助けあって笑顔で暮らせるまち」を念頭におき、さまざまな事業を展開しています。



KIA の主な活動は次のページへ Go!

KIA (小牧市国際交流協会)



小牧 2 - 107 (公民館 4 階)
 ☎ 76 - 0905 ☎ 71 - 8396
 ✉ kia@ma.ccnw.ne.jp
 業務時間 9 : 00 ~ 17 : 00
 休日 : 日、月、祝日



ホームページはこちら▶▶

市内に住む外国人に聞きました 「こまきについてどう思いますか??」



高橋アリサさん(左)・イアンくん(右)

毎日やることが
イッパイあって
楽しいです

ズエンさん

楽しいイベントが
たくさんあります!

チャンさん(左)・ハさん(右)

まちがとっても
キレイで
暮らしやすいです

友達が
いっぱい
楽しい!

タオさん

何でもあって
とても便利!

タンさん

こまきは
住みやすく
大好きです!

We Love KOMAKI!

誰かが暮らしやすいまちづくりのために
 KIA が誕生して25年が過ぎましたが、その間の国内の社会情勢は、大きく様変わりしました。
 今では、街のいたる所で外国人市民の活躍する姿を目にします。
 KIA が実施する日本語教室やイベントで触れ合う外国人市民は、フレンドリーでチャージングな方々ばかりです。そんな彼らをはじめ、一人でも多くの市民にこまきを良い街だと思ってもらえるよう、KIA はこれからもボランティアさんと共に、魅力的かつ効果的な事業に取り組んでいきたいと思っています。
 (KIA 一回)



KIA 事務局のみなさん

国際こども教室

あっというまに仲良しに!



外国にルーツをもつ子どもと日本の子どもと一緒にカレー作りや飯ごうによる炊飯に挑戦しました。



国際理解講座

さまざまな価値観を共有!



外国につながる青少年との対話を記録したドキュメント映画を鑑賞した後、意見交換しました。
ともに未来を生きる仲間として何をすべきかを考えました。

防災訓練

もしもの時に備えて!

消防署・尾張中北消防指令センターで、外国人が災害時の対応を学びました。



料理教室

料理は国境を超える!



インドネシアの先生からナシゴレンなどの料理を教してもらいながら異文化交流を楽しみました。



日本語体験隊 NAKAMA

実りのある経験を!



教室で学んだ日本語をまちに出て実践する日本語リアル体験プログラム。行動範囲が広がり日本の生活がより充実することを目標としています。



日本語教室

みんな真剣に学んでいます!



基礎から上級クラスの全 10 コースを設けている日本語教室では、多くの外国人が真剣に日本語を学んでいます。今年度は延べ 600 人強の方が受講しています。

国際交流ふれあいフェスタ

毎年たくさんの方が参加!

もっと身近に外国を!! をテーマに開催したフェスタは気軽に外国の方と交流できるイベントです。



プレスクール

しっかりと入学の準備!



外国にルーツをもつ 5 才児を対象として、小学校に入学する前にひらがな・数学・日本の学校事情を学んでもらっています。